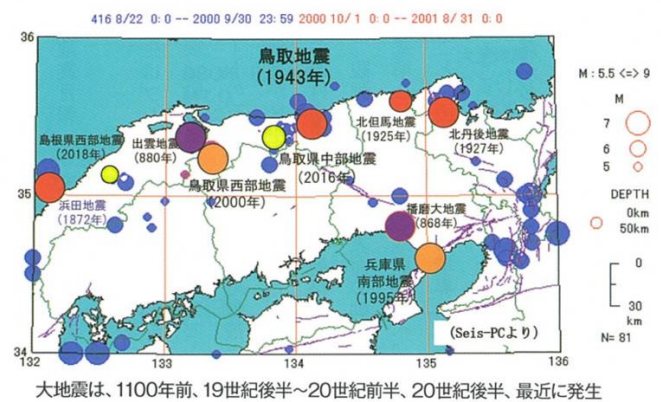




9月1日は防災の日です。1923年9月1日に関東大地震が発生し、甚大な被害を受けたため、この震災の教訓を忘れないために、9月1日が「防災の日」になったのです。また、関東大地震が発生してから20年後の1943年9月10日に鳥取地震が発生しました。そのため、鳥取市では、9月10日を「防災の日」に制定しています。そして、今年が関東大震災からちょうど100年、鳥取地震が発生してから80年になります。今回は、山陰海岸の地震活動について取り上げるとともに、鳥取地震とはどのような地震だったのか、振り返りたいと思います。

## 山陰海岸の地震活動

山陰海岸では、これまで多くの被害地震が発生してきました。図1は、山陰海岸とその周辺地域のM(マグニチュード)5以上の地震の震央分布です。中国地方では、日本海側に多くの地震が発生していることがわかります。山陰海岸ジオパークのエリアでは、M6以上の地震は、1925年の北但馬地震、1927年の北丹後地震、1943年の鳥取地震です。一方、岡山県や広島県では大きな地震はほとんど発生していません。なぜ、日本海側に大きな地震が発生するのでしょうか。



大地震は、1100年前、19世紀後半～20世紀前半、20世紀後半、最近に発生

図1:山陰海岸とその周辺地域の震央分布(M5以上 ●)

【鳥取の震災】より(西田氏作成)

## 山陰地方のひずみ集中帯

図2は、GNSS\*(GPS)観測による2005年から2009年にかけての西日本の地表面の移動の様子を表したものです。矢印の長さは、地表面が1年間に移動した距離(cm)を表し、矢印の向きが移動の方向を表しています。つまり、矢印の長さが長いほど、大地が動いており、ひずみが集中していると考えられます。太平洋側は、フィリピン海プレートの沈み込みによって大きく移動し、ひずみ集中していることがわかります。そして、太平洋側から日本海側に行くにしたがって移動量は小さくなり、ひずみが減少していきます。しかし、鳥取県から島根県東部地域にかけては、再び移動量が増加しています。しかも、向きが太平洋側とは反対の右向き(東向き)になっています。

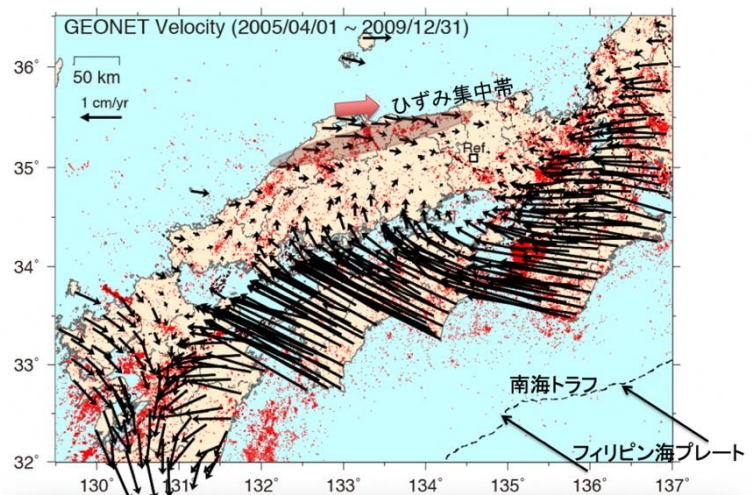


図2:GNSS(GPS)観測による2005-2009年の西日本の地表面の移動の様子

【2015年第1回鳥取県地震防災調査研究委員会被害想定部会資料

(京都大学防災研究所 西村卓也氏)より

この地域が「山陰地方のひずみ集中帯」と呼ばれ、過去の大地震もこの地域で多く発生しています。近年の研究では、日本海側の大地震は、このひずみ集中帯が原因ではないかと考えられています。(裏面へ)

※Global Navigation Satellite Systems の略で、全地球衛星測位システムをいう。GPS はアメリカの衛星測位システムのこと。

## 1943年（昭和18年）鳥取地震とその被害

鳥取地震は、1943年9月10日午後5時36分に発生しました。鳥取市の西南西に位置する鹿野断層と吉岡断層の地下を震源とする地震で、地震の規模はM7.2でした。鳥取市では震度6を記録し、強い揺れで多くの家屋が倒壊し（写真1）、その下敷きになって多くの人々が亡くなりました。また、夕食の準備や風呂焚きの火が火元となり、市内の22カ所から火災が発生しました。この火災によって40名の方々が亡くなっています。鳥取地震発生から1年後の昭和19年9月10日に発行された「鳥取県震災小誌」によると、この地震で行方不明者26名を含む1,210名が亡くなられ、重軽傷者を合わせると5,070名にもおよぶと記録されています。

地震では、土木関係の被害も甚大でした。鳥取地震では、道路の陥没や法面の崩壊、橋梁の落下、河川の堤防の沈下や土手の崩壊（写真2）、防波堤の亀裂など記録されている被害箇所は1,008カ所にもなったそうです。

## 鳥取地震80年共催事業

### (1) 『鳥取の震災』出版記念シンポジウム・鳥取市防災フォーラム

先日の9月10日に、『鳥取の震災』出版シンポジウムと鳥取市防災フォーラムが開催されました。この本は、鳥取地震を含む山陰地域の地震の歴史をまとめた初めての本です。シンポジウムでは、各章の著者がスライドを使いながら担当された章の内容を説明され、意見交換や質疑が行われました（写真3）。

鳥取市防災フォーラムでは、緊急消防援助隊制度とその概要が説明され、その後「災害に備えた共助社会づくりにむけて」と題して、パネルディスカッションが行われました。鳥取市自主防災会や防災指導員の活動、鳥取大学の防災サークルの活動などが紹介され、改めて日頃の備えの大切さを学びました。

### (2) 鳥取地震犠牲者の慰霊碑（記念碑）建立

上記のシンポジウムとフォーラムの同日に、鳥取地震犠牲者の慰霊碑建立が行われました。私自身も、これまで犠牲者の慰霊碑がなかったことに気がつきませんでした。慰霊碑は、旧鳥取市役所の跡地の一角に建立されています。

慰霊碑の除幕式は、鳥取地震80年追悼のつどいの中で行われました。鳥取地震の痕跡としては、鹿野断層と震災当時の姿を残す五臓園ビル等がありますが、鳥取地震を思い起こさせる場所が新たに加わりました。みなさんも一度訪れてみてはいかがでしょうか。（安藤）

<参考文献>

- ・復刻版「鳥取県震災小誌」, 1982, 鳥取市
- ・郷土シリーズ41「鳥取の震災」, 2023, (一財)鳥取市社会教育事業団
- ・第1回鳥取県地震防災調査研究委員会被害想定部会資料, 2015, 西村卓也, 京都大学防災研究所
- ・とっとりデジタルコレクション, <https://digital-collection.pref.tottori.lg.jp/>



写真1:鳥取市中心市街地智頭街道筋の様子  
(鳥取県立公文書館所蔵)

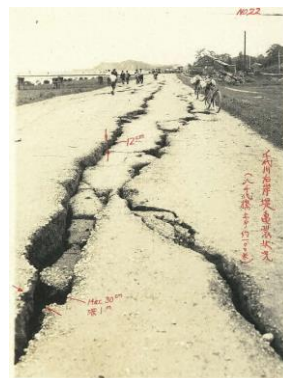


写真2:千代川土手の被害状況  
(鳥取県立公文書館所蔵)



写真3:出版記念シンポジウムの様子



写真4:鳥取地震犠牲者の慰霊碑

<10月のイベント> 詳しくは HP でご確認ください

- ◆山陰海岸ジオハイキング～湖山池青島コース～ 10/1
- ◆コウノトリはなぜ住み着いた？気高の大地 謎解きツアー 10/7
- ◆山陰海岸ジオハイキング～賀露の歴史散策コース 10/14
- ◆観光客が知らない鳥取砂丘西側ミステリーツアー 10/21
- ◆オリジナルの焼き物を作ろう！～真名焼き陶芸体験～ 10/22